

⑤ 岸本美緒 著

『中国社会の歴史的展開』

(放送大学教育振興会)

俗に、「中国4000年の歴史」などと言われます。この本は、古代から近現代まで、その中国の長い歴史の概説です。一口に中国史といっても、時代ごとに様々な特色があります。元々は放送大学のテキストとして書かれているだけあって、史料の引用や図版・年表・地図なども交えながら、歴史の流れが分かりやすく解説されています。

中国とは何か。日本史とも関わりの深い中国史を知る入門として、足がかりとなる一冊です。(N.T.)

222.01 ||Kis

⑦ 石井桃子 著

『新編子どもの図書館』

(岩波書店)

この本は、著者がご自宅で開かれた子どもの図書館「かつら文庫」の経緯を綴ったものです。

実際に読んでみると、著者の文章は児童文学者らしくひらがなが多いので子ども向けの平易なものにみえます。しかしよく読めば読むほど、実は句読点の打ち方ひとつとっても深く選び抜かれた文章で書かれています。思わず声に出して読みたくなるような生き生きとしたリズムがあり、この本を読んで図書館で児童奉仕をしたいと志す人が増えたそうです。この本を読めば児童文学への見方が変わるかもしれません。(H. Y.)

016.28 ||Ish



⑥ トビー・ゾンネマン 著；高尾菜つこ 訳

『レモンの歴史』

(原書房)

独特な外見と酸味を持ち、様々な料理に使用されるレモン。今ではお馴染みの果物がどのようにして生み出され、世界中に広まったのか、考えたことはあるでしょうか？本書は食物としてだけでなく、医学、宗教、産業などといった様々な観点からレモンについて深く掘り下げています。読み進めていくほど、レモン1個だけでもこれほど深い歴史があるのかと驚かされます。

あまりレモンを食べる機会が無いという方も、今まで何気なく料理などに使用していた方も、本書を読み終えた後、改めてレモンを口にすればまた違った味わいになるでしょう。(F.Y.)

625.3 ||Son

⑧ 植月恵一郎、廣本和枝 共編

『文学と歴史の曲がり角：英米文学論文集』

(英光社)

本書は、作家・詩人の描く歴史的な事件や歴史上の人物がどういう描かれ方をしているのかを考察する論文集です。文学と歴史との関係、文学における史料としての価値など、個々の作品に登場する人物の扮装、動作、言葉や扱われている事物の背景をユニークな切り口で分析しています。

例えば、シェイクスピア劇での女性の男装化は、女王エリザベス1世時代のジェンダー観に支えられていることや、『マクベス』の魔女やマクベス夫人の幻覚がその当時の悪魔学や医学理論の影響を受けていることなど、大いに好奇心を掻き立てる内容となっています。(F.O.)

930.4 ||Bung